

・平成23年度フォローアップ結果のポイント

○計画期間：平成20年7月～平成25年3月（4年9月）

1. 概況

基本計画掲載事業56事業のうち11事業が完了、41事業が実施中、4事業が未着手である。公共事業においては、地区の文化拠点となる「文化・交流拠点地区」内のホールや図書館については、外装工事が概ね完了し、現在、施設内装や外構工事を進めており、平成24年7月にオープンする予定である。

また、多くの市民が早期再生を望んでいた「コムシティ」については、商業床の再生が民間事業として実現しなかったため、平成23年7月に市が取得し、同年12月には「コムシティ再生計画」を策定して、現在、改修の設計等を進めているところである。

加えて、「文化・交流拠点地区」や「コムシティ」といった新たな集客施設を結ぶ「黒崎駅前線（ふれあい通り）」や「黒崎駅ペDESTリアンデッキ」については、着実に整備を進めており、図書館やホールと同時に供用を開始する予定である。

民間事業においては、「文化・交流拠点地区」内の生活利便施設やシニアマンションについては、図書館とホールに合わせて供用開始する予定で、分譲マンションは、住宅整備の支援制度を活用し、早期完成を目指して建築工事を進めているところである。

また、「黒崎賑わいづくり発信プロジェクト推進事業」については、地元商業者を事業主体とする「黒崎バザール」において、「まちづくり総合支援事業」で中心市街地活性化協議会に配置した支援スタッフのサポートを受けながら、事業協賛金を多方面から獲得し、全商店街が参画するお客様参加型のイベントを初めて開催し、多くの来街者で賑わった。

加えて、商店街内の空き店舗を活用して平成21年度にオープンした「スイーツの駅96Cafe」では、2名の第1期支援者が地区内に独立開業した。平成23年11月より4名の第2期支援者が、商店街での独立を目指し、専門家の経営指導を受けながらカフェや洋菓子のチャレンジショップに入居しており、商業活性化に向けた取組みを進めている。

さらに、「文化・交流拠点地区」等の新たな集客核のオープンを端緒とする中心市街地の回遊性強化に向けて、商店街や自治会等からなる回遊性向上研究会を設立し、集客核と連携したタイアップイベントや商店街の魅力を発信するイベント等、回遊性向上事業の検討を進めている。

2. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	前回の 見通し	今回の 見通し
・来街者で賑わうまち (集客と回遊性の強化)	・ 中心市街地における 歩行者通行量	20,164人/日 (H19年)	27,000人/日 (H24年度)	18,513人/日 (H23年度)		
・住みたい・住み続けたいまち (定住人口の増進)	・ 中心市街地内の 居住人口	5,689人 (H19年)	6,300人 (H24年度)	6,370人 (H23年度)		
・経済活力のあるまち (商業の活性化)	・ 中心市街地の 小売業年間商品販売 額	43,500百万円 (H19年度推計値) 40,407百万円 (H19年度実測値)	48,700百万円 (H24年度)	36,211百万円 (H21年度) H22年度報告値		-
	・ 中心商店街ゾーンの 空き店舗率	21% (H19年)	16% (H24年度)	16.9% (H23年度)		

注) 取組(事業等)の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。
 取組の進捗状況は概ね予定通りだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
 取組の進捗状況は予定通りではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。
 取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
 取組が実施されていないため、今回は評価対象外。

3. 目標達成見通しの理由

「中心市街地内の居住人口」と「中心商店街ゾーンの空き店舗率」については、良好な民間共同住宅への支援制度を活用した住宅供給促進や、空き店舗の活用支援等の事業効果が最新値に表れており、今後も着実に事業に取り組むことで目標達成は可能である。

「中心市街地における歩行者通行量」と、昨今の厳しい経済状況や、数値目標の達成に関わる主要事業の遅れにより、最新値は基準値に対して増加に至っておらず、また、昨年度フォローアップした「中心市街地の小売業年間商品販売額」は、同様の傾向が見込まれる。

しかしながら、目標達成に向けた取組みとして、「文化・交流拠点地区」では、図書館やホール、広場・緑地等の公共施設に加え、スーパー等の生活利便施設や高齢者向けのサービス機能を有したシニアマンション等の民間施設が平成24年夏にオープンする予定であり、再生に時間を要していた「コムシティ」についても、民間所有の商業床等を市が取得した後、平成23年12月に「コムシティ再生計画」を策定し、平成24年度のなるべく早期に工事着手する予定である。

また、200万人を超える「文化・交流拠点地区」や「コムシティ」への来訪者を商店街へと誘引し、商業活性化と中心市街地の回遊性向上を実現するため、商店街や自治会、地元まちづくり団体、市等からなる回遊性向上研究会を平成23年12月に設立し、地域が一体となって取り組む効果的な事業の選定や事業内容、実施体制等について具体的な検討を進めているところである。

更には、中心市街地活性化協議会が中心となって、地元や民間事業者等の関係者と連携しながら、基本計画への新たな事業追加や見直しを積極的に行っており、計画期間内での目標達成は可能である。

4. 前回フォローアップと見通しが変わった場合の理由

見通しは変わっていない。

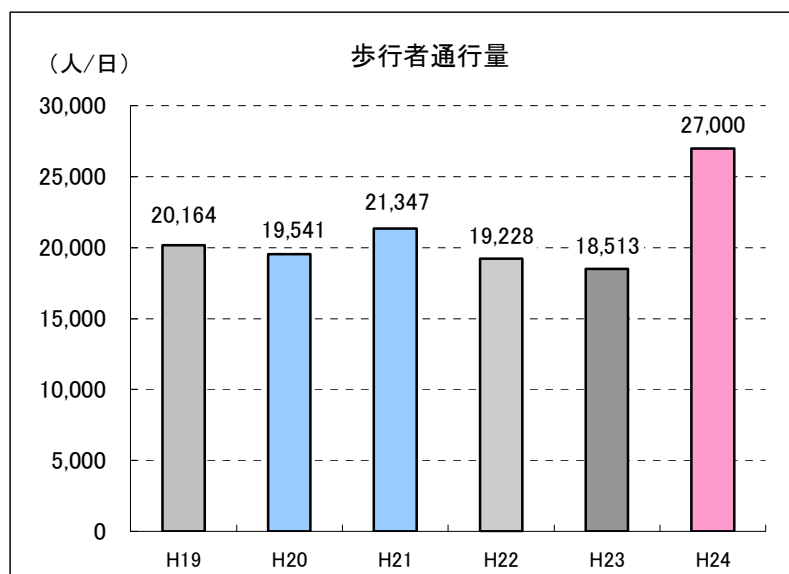
5. 今後の対策

最終年度での目標達成に向け、既に目標値を超えている「定住人口の増進」や改善が進んでいる「空き店舗率」の効果を、「歩行者通行量」や「小売業年間商品販売額」の数値改善にも繋げられるよう、中心市街地活性化協議会を中心として、多様な関係主体との連携のもとに、認定と連動した支援措置等の更なる活用を図るなど創意工夫しながら、目標達成に向けた各種取組みを積極的に推進していく。

・目標毎のフォローアップ結果「来街者で賑わうまち（集客と回遊性の強化）」

「中心市街地における歩行者通行量」 目標設定の考え方基本計画 P64～P71 参照

1. 調査結果の推移



年	人/日
H19	20,164 (基準年値)
H20	19,541
H21	21,347
H22	19,228
H23	18,513
H24	
H24	27,000 (目標値)

調査方法；実測数の3日間平均

調査月；10月中旬

調査主体；北九州市

調査対象；商業集積エリア内の10ヶ所における歩行者通行量（9時～19時）

2. 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

・子どもの館リニューアル事業（北九州市）

事業完了時期	【済】平成21年4月
事業概要	本事業は、開館6年を迎えた「子どもの館」のより一層の子育て機能施設の強化を図るために、一部施設のリニューアルを行う事業である。
事業効果又は進捗状況	平成21年4月にリニューアルオープンし、事業効果として、年間来場者がリニューアル前に比べて約18.2万人(平成23年11月末時点)増加しており、歩行者通行量の増にも寄与している。

・黒崎地区賑わい交流機能の整備（北九州商工会議所）

事業完了時期	【済】平成21年度～平成23年度
事業概要	本事業は、商店街内の空き店舗を活用して、チャレンジショップ、休憩所、トイレ、カフェ、案内所、商業者サポート、会議室、事務所等の機能を複合的に整備・運営するものである。
事業効果又は進捗状況	スイーツに特化したチャレンジショップやトイレ、休憩スペース、授乳室などの利便施設を備えた「スイーツの駅96カフェ」が、平成21年11月にオープンした。 専門家の技術・経営指導等の支援を受けながらチャレンジショップに入居していた6名のうち、2名が支援終了後に地区内で新規開業した。

・【追加】イベントスペース運営事業（黒崎連合商店街振興組合、北九州市）

事業完了時期	【済】平成21年度～平成23年度
事業概要	本事業は、商店街内の空き店舗を活用して、全国各地の物産展の開催や多様な地域イベントを実施するスペースを運営するものである。
事業効果又は進捗状況	雇用創出のための支援制度を活用して、全国各地の物産展等を開催するイベントスペースを平成21年11月にオープンし、地域活性化イベント等を開催してきた。事業は、平成23年度で終了となったが、商店街の賑わいづくりに一定の役割を果たした。

・黒崎副都心賑わいづくり推進事業（実行委員会）

事業完了時期	【実施中】平成17年度～
事業概要	地元まちづくり団体や商店街、大型店等が主体となって実施するイベントや魅力づくり等の賑わいづくり活動に対して支援する事業である。
事業効果又は進捗状況	<p>地元の商店街、自治会、まちづくり団体が構成された「黒崎宿にぎわいづくりの会」を主体として、年4回のイベントを開催している。</p> <p>平成22年度のイベント集客数は9.3万人であった。平成23年度も引き続きイベントを開催し、集客数は約10.3万人であり、歩行者通行量の増に寄与している。</p>

・文化・交流拠点地区（図書館・ホール）、（広場・緑地等）の整備（北九州市）

事業完了時期	【未】平成24年度
事業概要	本事業は、旧九州厚生年金病院跡地等を活用して、文化・交流機能の集積を図るためホールと図書館を整備するとともに、市民が憩い集える広場・緑地等を整備するものである。
事業効果又は進捗状況	平成22年8月より工事に着手し、平成24年7月にオープンする予定である。

・黒崎駅前線・黒崎駅前線（岸の浦工区）（北九州市）

事業完了時期	【未】平成3年度～平成24年度
事業概要	本事業は、中心市街地のメインストリートとして、黒崎駅と文化・交流拠点を結ぶ重要な回遊軸として、交通の円滑化と快適な歩行者空間を形成するものである。
事業効果又は進捗状況	文化・交流拠点地区がオープンする平成24年7月に合わせて供用開始できるよう、整備を進めている。

・黒崎駅ペDESTリアンデッキ整備（北九州市）

事業完了時期	【未】平成21年度～平成24年度
事業概要	本事業は、建設から25年以上が経過し、老朽化が進んでいるペDESTリアンデッキの長寿命化対策に合わせ、本市の副都心として相応しい景観整備を行うもの。
事業効果又は進捗状況	文化・交流拠点地区がオープンする平成24年7月に合わせて供用開始できるよう、整備を進めている。

・コムシティの再生（北九州市）

事業完了時期	【未】平成24年度
事業概要	本事業は、閉鎖した商業施設部分に、店舗やサービス施設等の集客機能に加え、地域交流や市民の福祉・文化の向上に資する公益機能の導入を図ることで、再開発ビルの再生を行うものである。
事業効果又は進捗状況	昨今の厳しい経済状況から民間での再生が遅れていたが、早期再生へ向けて、市が民間所有の商業床等取得し、現在、工事着手へ向けた施設設計や関係機関との協議を進めているところである。

3. 目標達成の見通し及び今後の対策

歩行者通行量については、地元を主体とする賑わいづくりイベントの開催や空き店舗を活用したチャレンジショップの運営等の各種取組みを進めているものの、数値への影響が大きいコムシティの再生が遅れ、文化・交流拠点地区のオープンが本年7月であることから、最新値は基準値に対して増加に至っていない。

目標達成に向けた取組みとしては、再生に時間を要していたコムシティについて、民間所有の商業床等を市が取得した後、早期再生へ向けて市民の幅広い意見を反映した再生計画を策定し、現在、早期工事着手へ向けて改修設計等を進めているところである。

また、ホールや図書館、広場等を有する文化・交流拠点地区については、駅とを結ぶ地区の重要な回遊軸である黒崎駅ペDESTリアンデッキと黒崎駅前線のリニューアルと合わせて、平成24年7月に完成する予定である。

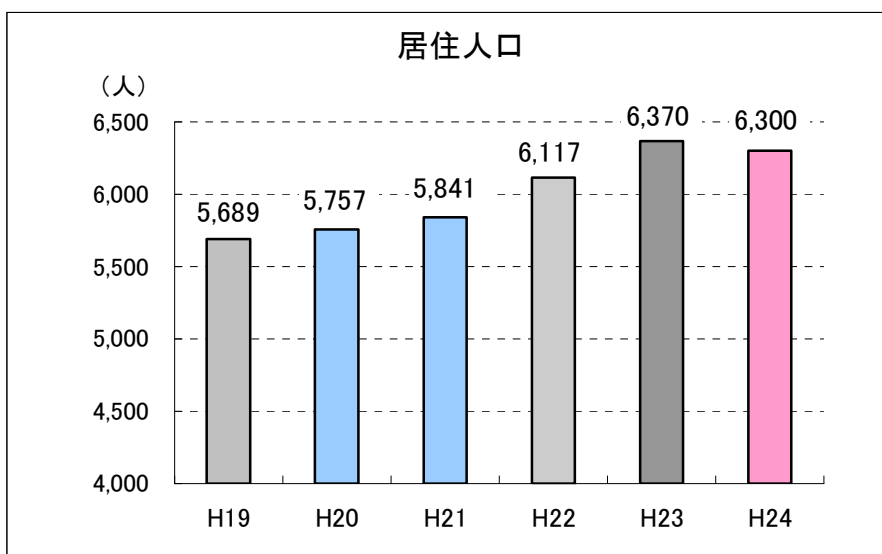
更には、コムシティや文化・交流拠点地区への来訪者を商店街へ誘引し、中心市街地の回遊性を高めるため、商店街や自治会、地元まちづくり団体、市等からなる回遊性向上研究会を発足し、回遊性向上事業の早期実施へ向けた検討を積極的に進めている。

今後も引続き目標達成に繋がる各種事業を積極的に進めることで、数値目標の達成は可能である。

・目標毎のフォローアップ結果「住みたい・住み続けたいまち（定住人口の増進）」

「中心市街地の居住人口」 目標設定の考え方基本計画 P73～P77 参照

1. 調査結果の推移



年	人
H19	5,689 (基準年値)
H20	5,757
H21	5,841
H22	6,117
H23	6,370
H24	
H24	6,300 (目標値)

調査方法；住民基本台帳の町別集計

調査月；9月下旬

調査主体；北九州市

調査対象；基本計画区域内

2. 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

・中心市街地における共同住宅供給の促進（北九州市）

事業完了時期	【実施中】平成20年度～平成24年度
事業概要	本事業は、中心市街地への質の高い住宅供給を促進するためのものであり、認定を受けた中心市街地活性化基本計画の区域内で行われる良質な住宅系プロジェクトに対し、各種支援策の活用を図り、民間事業を推進するものである。
事業効果又は進捗状況	第1号認定の共同住宅が平成22年3月に、第2号認定の共同住宅が平成23年3月にそれぞれ完成し、現在良好な入居状況となっている。また、平成23年9月には第3号の認定を行い、現在、建築工事を進めているところである。

・まちのルールづくり（黒崎商店組合連合会）

事業完了時期	【実施中】平成20年度～
事業概要	本事業は、黒崎の商店街について、業種・業態や建築物・広告物などのハード面のルールや、清掃の徹底、呼び込みの規制等による環境保全に関するソフト面の協定など、まちのルールづくりを行うものである。
事業効果又は進捗状況	黒崎商店組合連合会が、自治会や警察等の幅広い関係者と共に平成21年12月に「まちのルール」を策定し、現在、推進・啓蒙活動を進めており、都心居住の魅力向上に寄与している。

・【追加】黒崎中央公園・蛸原公園整備事業（北九州市）

事業完了時期	【済】平成23年度
事業概要	本事業は、社会情勢の変化により利用者が少なくなった公園を、商業者や地域住民等と合意形成を図りながら、活性化に向けたまちづくり役に役立つ公園となるよう再整備を行うものである。
事業効果又は進捗状況	商業者や地域住民とともに、中心市街地活性化に役立つ公園となるようワークショップを活用して基本計画を策定し、蛸原公園は平成23年5月に、黒崎中央公園は平成23年1月にリニューアルオープンした。

・【追加】文化・交流拠点地区（民間収益施設）整備（株式会社クレアス、九電不動産株式会社、大和リース株式会社）

事業完了時期	【未】平成20年度～平成24年度
事業概要	本事業は、文化・交流拠点地区内に整備する図書館・ホール等と併せて、シニアマンション等の共同住宅や生活用品を提供する利便施設を整備するものである。
事業効果又は進捗状況	図書館やホールのオープンに間に合うよう、現在、施設の整備を進めている。

・子どもの館リニューアル事業（北九州市）【再掲P. 3参照】

・文化・交流拠点地区（図書館・ホール）、（広場・緑地等）の整備（北九州市）
【再掲P. 4参照】

3. 目標達成の見通し及び今後の対策

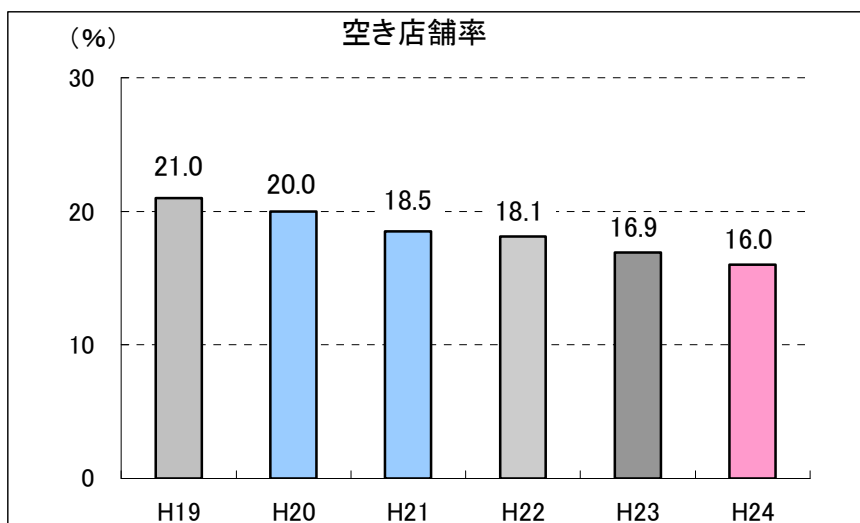
居住人口については、良好な共同住宅の供給促進や居住環境の向上に資する基盤整備等の各種取組みが概ね予定通りに進捗し、当初計画通りに事業効果が表れており、目標達成は可能である。

今後も引き続き、目標達成に向けて、居住環境の向上に資する基本計画に位置付けたハード・ソフト事業を着実に推進していく。

・目標毎のフォローアップ結果「経済活力のあるまち（商業の活性化）」

「中心商店街の空き店舗率」 目標設定の考え方基本計画 P85～P89 参照

1. 調査結果の推移



年	%
H19	21.0 (基準年値)
H20	20.0
H21	18.5
H22	18.1
H23	16.9
H24	
H24	16.0 (目標値)

調査方法；実地調査

調査月；毎年9月

調査主体；北九州市

調査対象；中心商店街ゾーン

2. 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

・空き店舗賃借料補助制度の拡充（北九州市）

事業完了時期	【実施中】平成20年度～
事業概要	本事業は、商店街の空き店舗を活用しようとする意欲ある者に対して賃借料及び改装費の一部を補助する制度である。
事業効果又は進捗状況	平成23年7月より、市内全域を対象に補助率を引き上げたのに加え、地区内の新規開業者に対しては、限度額を上乗せし、中心商店街での新規開業を推進している。

・黒崎地区商業ベンチャー育成事業（北九州商工会議所）

事業完了時期	【実施中】平成18年度～平成24年度
事業概要	本事業は、商業における優れたビジネスプランを有する起業希望者が黒崎駅前商店街の空き店舗を活用する場合に、賃借料の一部を補助したり、経営指導等の支援を行うものである。
事業効果又は進捗状況	基本計画開始から計6店舗の起業家に対して支援を実施し、空き店舗の減少につなげている。

・黒崎地区賑わい交流機能の整備（北九州商工会議所）【再掲 P. 3 参照】

・【追加】イベントスペース運営事業（黒崎連合商店街振興組合、北九州市）

【再掲 P. 4 参照】

3. 目標達成の見通し及び今後の対策

空き店舗率については、「黒崎地区商業ベンチャー育成事業」や「空き店舗賃料補助制度の拡充」、チャレンジショップ「スイーツの駅 96カフェ」の第1期支援者が地区内に出店する等、空き店舗の解消に向けた各種取組みが概ね予定通り進んでおり、目標達成は可能である。

今後も、目標達成に向けて、空き店舗の活用支援や既存店舗に対する経営サポート等の取組みを着実に推進していく。